

研修科目	日本文化活動コーディネーター育成（基礎）
分野	日本文化
コース No.	C9
研修種別	集団
上期・下期	上期
来日日	7/21
帰国日	8/31
提案団体	公益財団法人海外日系人協会
提案 URL	<a href="https://www.jadesas.or.jp/">https://www.jadesas.or.jp/</a>
現職・資格・知識	日系日本語学校または日系団体の文化部担当者、青年部のリーダーなど
経験年数	1年以上
日本語能力	不問
英語能力	不問
① 目標	研修員が、日本文化・歴史に関する基礎知識を習得し、継承および普及のための日本文化活動を企画・運営するための知識を習得する。
② 成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修員に、日本文化・歴史に関する基礎知識が習得される。</li> <li>2. 研修員に、様々な日本文化活動事業に関する企画実施方法が習得される。</li> <li>3. 研修員が、日本文化活動を通じて、日系社会および地域活性化のための活動案を作成する。</li> </ol>
③ 計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義；日本文化・歴史の基礎知識、各国日系団体事情、各種イベント企画手法、日本文化紹介手法、日系団体の役割とあり方、ファシリテーション手法、新規事業計画作成等</li> <li>2. 実習・体験；日本文化体験</li> <li>3. 見学；日本文化・歴史の関連施設、文化系・教育系 NPO の活動、移住関連施設</li> <li>4. 発表；研修最終日</li> </ol>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>日本文化活動を通じて日系社会が地域とつながり、日系人だけでなく地域を巻き込んだ活動にすることと、「地域との交流・地域への貢献」を意識した活動計画を作成、活動を通して地域住民に日系社会の存在とその意義を知ってもらい相互理解を深めることで、地域全体の活性化につながることを期待できる。</p> <p>講義や現場視察を通じて、日本の伝統文化および現代文化に関する知識を深め、その価値を見出すことにより、文化継承・普及の意義を研修員が体感することで、本研修を実施することの意義は大きい。</p>
備考	

研修科目	改善と5S
分野	その他
コース No.	C13
研修種別	集団
上期・下期	上期
来日	5/12
帰国日	6/8
提案団体	一般財団法人日本国際協力センター
提案 URL	<a href="https://www.jice.org/">https://www.jice.org/</a>
現職・資格・知識	<p>大学卒業程度の能力を有し、卒業後3年以上の実務経験を有すること（在学中の職業経験は含めない）。</p> <p>受講に際して、英語または日本語のいずれかで資料を理解し、レポートを作成・発表できる語学力を有すること。</p> <p>製造業の事例や演習を用いるため、製造業に従事していることが望ましい。</p>
経験年数	学校卒業後、3年以上
日本語能力	N2
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
① 目標	研修員が、「改善」と「5S」の考え方を理解し、問題の解決・向上に向けた実践的なスキルと活動を展開するためのアプローチを習得し、現状を改善するためのアクション・プランを作成する。
② 成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 改善及び5Sの考え方について理解する</li> <li>2. 製造現場における改善のアプローチについて理解する</li> <li>3. 5S活動の進め方について理解する</li> <li>4. 問題解決手法を習得する</li> <li>5. リーダーとしての役割を認識し行動変容を促す</li> <li>6. アクション・プランを作成する</li> </ol>
③ 計画（内容）	<p>講義：トヨタ生産システム、5S活動の進め方、問題解決の進め方</p> <p>演習：生産現場における5S、生産管理、問題解決、アクション・プラン作成</p> <p>見学：製造業を中心とする企業訪問</p> <p>発表：ジョブ・レポート発表、アクション・プラン発表</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>「改善」や「5S」は日本人の文化に根差す。日本での研修を通して、「KAIZAN」や「5S」の手法だけでなく、その根底にある考え方や行動を理解し、更なる改善に向けたモチベーションを高める。また、現場のリーダーとして活動を牽引するためのリーダーシップについて意識を高め、行動変容を促す。</p> <p>日系人の若者は、日本の経済成長について関心も高く、日本企業の経営に対する考え方について理解を深めることで、「日本的価値観」が継承され、あるいは参加者間の交流を通じて日系人としての意識や連帯感が強まり、日系社会の発展に寄与することが期待できる。</p>
備考	

研修科目	起業・後継者のための経営力強化
分野	その他
コース No.	C14
研修種別	集団
上期・下期	上期
来日日	6/16
帰国日	7/13
提案団体	一般財団法人日本国際協力センター
提案 URL	<a href="https://www.jice.org/">https://www.jice.org/</a>
現職・資格・知識	大学卒業程度の能力を有し、卒業後5年以上の実務経験を有すること（在学中の職業経験は含めない）。 受講に際して、英語または日本語のいずれかで資料を理解し、レポートを作成・発表できる語学力を有すること。 既に起業あるいは事業承継し、または具体的な計画があること。
経験年数	学校卒業後、5年以上
日本語能力	N2
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
① 目標	研修員が、経営者に求められる事業経営の知識やスキルを習得するとともに、経営者としての役割や社会的責任を自覚ようになる。また、自身の起業あるいは事業の継承・拡大の構想を明確にし、具体的かつ実現可能性のある事業計画書を作成する。
② 成果	1. 事業経営の課題（理念、承継、リスク管理） 2. マーケティング戦略 3. 事業環境の分析と問題解決フレームワーク 4. 数値計画 5. 経営者としてのリーダーシップ 6. 事業計画書作成
③ 計画（内容）	講義： 事業経営の基本、マーケティング戦略、経営環境分析と問題解決、経営数値管理、リーダーシップ 演習： マーケティング手法、経営環境分析、経営数値計画、事業計画作成 見学： 企業見学 発表： ジョブ・レポート、事業計画
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修では、事業経営に必要なマーケティングや財務のスキルを学ぶとともに、日本の事例を通して事業経営のノウハウ、失敗しない経営のポイント、イノベーションの取組みについて学ぶ。それらを踏まえて、自身の事業経営について多角的に考察し、中小企業診断士の助言を得て事業計画書を作成する。また、経営者に求められるコミュニケーション能力やリーダーシップについて自覚と認識を促す。 日系人の若者は、日本の経済成長について関心も高く、日本企業の経営に対する考え方について理解を深めることで、「日本的価値観」が継承され、あるいは参加者間の交流を通じて日系人としての意識や連帯感が強まり、日系社会の発展に寄与することが期待できる。
備考	

研修科目	食を通じた日系団体活性化
分野	日本文化
コース No.	C19
研修種別	集団
上期・下期	上期
来日	5/12
帰国日	6/14
提案団体	公益財団法人海外日系人協会
提案 URL	<a href="https://www.jadesas.or.jp/">https://www.jadesas.or.jp/</a>
現職・資格・知識	日系団体青年部等に所属し、諸活動に積極的に参加している者。 (婦人部部員を対象とした類似コースを別に提案しているため、それ以外の団体、部署に所属している者を優先する。) 帰国後、習得した技術を日系社会や地域社会のために役立てられる者。
経験年数	1年
日本語能力	不問
英語能力	不問
① 目標	研修員が、食を通じた地域活性化のための日系団体活動に関する知識を習得する。
② 成果	1. 研修員に、日本食を中心とした基礎的な調理技術が習得される。 2. 研修員に、食を通じた特産品の開発や地域活性化に関する知識が習得される。 3. 研修員が、所属団体が抱える課題解決のための新規活動計画を作成する。
③ 計画(内容)	1. 講義；日系社会と日系団体活動、日本の非営利活動等 2. 視察；先進農協、地域団体他 3. 実習；調理実習等
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	弊会では日系団体婦人部に所属する者を対象とした和食と団体運営管理に関するコースを提案、実施してきたが、近年、和食、日本のポップカルチャーが世界的にブームとなっていることに伴い、様々なイベントに婦人部のみならず男性会員や青年部のメンバー等が参加し、焼きそばや焼鳥などの和食、イベント食を提供する姿を見ることが多くなってきた。 本研修では婦人部とは異なる目線で和食や団体運営管理について学び、更なる日系社会及び地域社会の活性化を目指すため、特に婦人部以外のメンバーを対象とする。研修内容もイベント食やケータリングサービス等、幅広く和食を学ぶと同時に、特に食を通じた地域活性化に取り組む地域団体の視察を通し、地域社会の活性化及び課題解決手法を学ぶとともに、現地における農産物加工および様々なイベントにおいて提供できる新メニューの考案及び既存メニューの改良を目標とする。和食を通じた日系団体活性化は、和食という日本文化の継承につながると同時に、日系団体の活性化のみならず地域社会の活性化及び地域社会に貢献する活動となることが期待できる。
備考	

研修科目	日系継承教育（教師育成Ⅰ）
分野	継承教育・日本教育
コース No.	G21
研修種別	集団
上期・下期	下期
来日日	12/8
帰国日	2/8（5ヶ月/2024年9月1日～11月15日までの事前研修（通信）2.5ヶ月を含む）
提案団体	公益財団法人海外日系人協会
提案 URL	<a href="https://www.jadesas.or.jp/">https://www.jadesas.or.jp/</a>
現職・資格・知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則、日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師 （継承教育を実践する教師を育成することを目的とした研修であるため）</li> <li>・経験1～3年程度または教授時間300時間程度。 ※上記以上の経験年数または教授時間であっても、本コース受講経験がない場合は応募可。</li> <li>・日本語能力試験N3程度以上の能力を有すること（全講義、日本語で実施されるため）</li> </ul>
経験年数	1～3年程度または教授時間300時間程度
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	研修員が、継承教育に関する基礎的な知識（言葉、文化、歴史（移住学習を含む））及び指導技術を習得する。
② 成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研修員に、継承教育を担う教師としての基礎知識が習得される。</li> <li>2. 研修員に、継承教育・言語（発達）教育の基礎理論が理解され、実践方法が習得される。</li> <li>3. 研修員に、継承教育におけることばに関する知識及び指導技術が習得される。</li> <li>4. 研修員に、継承教育における文化的活動の基礎的指導技術が習得される。</li> </ol>
③ 計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義； <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 継承教育を担う教師としての基礎知識（通信：ブラジル日本語センター） <ol style="list-style-type: none"> <li>①日本語能力試験N2相当レベルの日本語力の習得</li> <li>②日本語文法、教授法等の専門用語の理解</li> <li>③報告書資料及びプレゼンテーション資料作成のための基礎的技術</li> </ol> <p>※日本語能力試験N2以上取得者は②③のみ。</p> </li> <li>(2) 継承教育・言語（発達）教育の基礎理論 継承教育と人格形成（日系継承教育の考え方、日本の歴史と移住の歴史）</li> <li>(3) 継承教育とことば ことばの教育（概論、日本語授業の研究（一般/年少）、技能別指導法）</li> <li>(4) 継承教育と文化 こどもと文化活動（日本語学校と文化活動・日本文化体験・伝統文化と現代文化）</li> </ol> </li> <li>2. 視察；公立校、移住関連施設、日本文化施設など</li> <li>3. 演習</li> </ol>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	JICAでは、本研修とあわせて現地研修のための助成金交付やJICA日系社会海外協力隊の派遣を行い、各事業の成果は見られるものの、

	<p>教師不足の解消には至っていないため、引き続き、他の事業との有機的な関連性の中で本研修を実施する必要がある。</p> <p>我が国と日系社会を含む中南米の国々との関係に鑑みると、日系人としてのアイデンティティを育んだ日系人の存在は重要である。そのためには、日系継承教育をいかに継続させていくかが重要であるところ、本研修を通じて、新しい指導法や伝統的日本文化及び現代の日本文化、移住史を含む日本の歴史、日本事情などに精通した教師を育成することの意義は大きい。</p> <p>なお、近年、日本の伝統的文化のみならず、マンガ、アニメに代表されるポップカルチャーが注目を集めている。日系日本語学校がクールジャパンの発信地的な役割を担うよう、それらの知識を習得させ、クールジャパンの担い手となる人材を育成することも期待される。</p>
備考	

研修科目	日系ネットワーク強化を通じた地域振興
分野	日系アイデンティティ
コース No.	G24
研修種別	集団
上期・下期	上期
来日日	7/21
帰国日	8/17
提案団体	高知希望工程基金会
提案 URL	無し
現職・資格・知識	日系社会でリーダー的役割の立場で活動している人材若しくは日系社会発展のために貢献が期待できる人材
経験年数	特に問わない
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	1. ダイバーシティ・ネットワークマネジメント力を有する日系青年リーダーを育成する。 2. 日系 ネットワーク強化を通じた地域振興アクションプランを創造する。
② 成果	1. 新たな日系ネットワークの構築と強化のアイデアと斬新な発想力を有するマネジメント力を習得する 2. 多様化した日系社会のアイデンティティをシナジーさせた地域振興プランの具体的なヒントを得る 3. 日系研修青年とローカルユースとの交流を通して日系社会に持続可能な新たなネットワークが構築される
③ 計画（内容）	講義：「よさこい祭りと地域振興」「ダイバーシティにおけるリーダーシップ論」「青少年グローバルリーダー育成フォーラム」「よさこい祭りがもたらす様々な波及効果」 視察：高知よさこい情報交流館、高知城、高知城歴史博物館 実技・実習：よさこい鳴子踊り、青少年グローバルリーダー育成フォーラム 発表：カントリーレポート（日系社会の現状報告）、 アクションプラン（研修成果報告） その他：高知県表敬、高知県議会表敬
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	1. 本研修実施を通して新たな日系ネットワーク構築と強化を図り、地域振興の一助とする 2. 新たな発想力とマネジメント力を有する青年リーダーを育成することにより日系社会に活力をもたらす
備考	高知での研修の背景と特徴 ①高知県の“よさこい祭り”は1954年に高知市の地域振興を目的として誕生した祭りで、そこで踊られる“よさこい踊り”は今や世界で愛される踊りとなっている。 ②そのため、“よさこい祭り”には地域振興を成功に導くための知見と、そのに関わった人材の体験や人を動かすためのノウハウが蓄積されている。 ③そこで、この“よさこい踊り”や“よさこい祭り”を学ぶことによって、“よさこい”を活用した日系社会の活性化や地域特性を活かした振興策のアイデアを創造して行く。 ④同時に、活性化を目指す日系社会や地域社会の中で活躍できる青年リーダーに必要な考え方やスキル、ネットワーク構築法を学ぶ。

研修科目	野球指導者の材育成
分野	その他
コース No.	C25
研修種別	集団
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	6/13
提案団体	高知ファイティングドッグス株式会社
提案 URL	<a href="https://kochi-fd.com/">https://kochi-fd.com/</a>
現職・資格・知識	高校卒業程度 日系社会で野球指導を精力的に行うことができる人材 競技経験があることが望ましいが、その限りではない
経験年数	3年程度以上が望ましいが、その限りではない
日本語能力	N5
英語能力	不問
① 目標	日本式野球が伝統的に大切にしている「時間・ルールを守る」「ものを大切にする」「協調性を育む」「感謝・尊敬の気持ちを持つ」といった全人的な教育要素に加え、野球指導及びチーム運営、スポーツマネジメント能力の強化を図ることにより、日系社会における日本式野球を普及・継承していく人材が育成される。
② 成果	(1) プロ野球球団の練習や指導方法を通じて、野球指導の手法を習得する。 (2) 監督・コーチ・選手の連携や地域での活動を通じ、チーム運営の手法を習得する。 (3) 地元少年野球チーム、高知県スポーツ課アスリート育成事業に係わる様々な競技団体と連携し、幼少期から多様なスポーツに触れる機会の創造と手法を習得する。 (4) 栄養学やメンタルトレーニング等を通じ、私生活からケアできる手法を習得する。 (5) 大学連携による課題に向けたアクションプランが作成される。
③ 計画（内容）	「野球コーチング・チームマネジメント」研修プログラム 【講義】コーチング論、トレーニング論、スポーツマネジメント論、スポーツ栄養学、メンタルトレーニング 等 【視察】高知 FD 公式戦、地元少年野球チーム、高知 FD 野球スクール、高知県軟式野球連盟主催 U-10 アカデミー 【実技・実習】高知 FD 公式戦マネジメント、練習参加（ウォーミングアップ・守備練習・打撃練習・投球練習） 【その他】地域の行事、小学校訪問などの地域振興イベントへの参加
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日系社会は入植した1世から、現在は3～4世の世代へと移行している。同時に、日系社会における野球のプレイスタイルは徐々にキューバ式やアメリカ式が主流となり、「日本野球らしさ」が希薄になりつつある。 しかし、日系野球文化を築いてきた1世はそれらの現状を懸念しており、礼儀・チームプレー・フェアプレーを重んじ、基礎・基本に忠実で青少年育成の観点からも、日本式野球の後世への継承を求める声が多く挙がっている。 野球を通じて、技術だけではなく南米地域に広がっている日系社会同士のコミュニケーションツールとしての機能も期待されている（スポーツ大会や日系イベント等）。 「時間・ルールを守る」「ものを大切にする」「協調性を育む」「感謝・尊敬の気持ちを持つ」等、野球だけではない社会で重要なスポーツマンシップを、日本式野球を通して指導したいチームがある一方で、

	<p>それらをコーチングできる指導者が少ない。  本研修を通じて、元プロ野球選手や地元アマチュアの野球指導者による指導メソッド、有資格トレーナーの技術、スポーツマネジメントやマーケティング、スポーツ栄養学など多岐にわたる分野を見て学び、日系社会各地で抱える課題を解決し、南米日系社会でリーダーシップを図れる人材育成へ貢献する。そして6年間の研修員OBは24名にもなり、OBによる南米広域での繋がりからコミュニティ形成もなされており、本研修のニーズは非常に高いと感じられる。</p>
備考	<p>本球団は、以前から JICA との連携により諸外国での野球振興の一端を担ってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年には青年海外協力隊員の活動がきっかけとなり、アフリカ・ブルキナファソから当時15歳のサンフォ・ラシナ選手を練習生として受け入れた。2015年にはプロ契約を結び、2020年シーズンは打点王とベストナインのタイトルを獲得。2021年シーズンは、外国人選手として初の主将に就任して2年連続のベストナインのタイトルを獲得、そして12年ぶりの後期シーズン優勝に大きく貢献した。2022年シーズンは引き続き主将を務め、2期連続となる前期シーズン優勝。さらに13年ぶりの年間総合優勝に貢献し、名実ともにチームの中心として活躍している。</li> <li>・2018年から始まった日系社会研修「野球指導者の人材育成」を実施し、2019年の2年間で3か国（ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン）から累計11名の指導者を高知県へ受け入れている。</li> <li>・2020・2021年度は新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響を受け、研修員の来日が叶わず、2年連続で3か国（ブラジル、パラグアイ、ボリビア）の野球指導者に対してオンラインで研修を実施した。</li> <li>・2022・2023年度は3年ぶりに来日しての研修が実現し、2年間で4か国（ブラジル、パラグアイ、アルゼンチン、ボリビア）から累計12名の野球指導者を受け入れた。</li> </ul> <p>これまでの研修内容や研修員からの声を受けて、各コンテンツを一步踏み込んだ応用的な内容を提供したり、これまでに無かった新しいコンテンツを取り入れたり、工夫を凝らした研修を提供し、好評を得ることができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染状況等により来日が困難な場合、オンラインでの研修も対応可能。</li> </ul>

研修科目	作業療法学
分野	医療・介護・高齢化
コース No.	L1
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	1/20
提案団体	札幌医科大学
提案 URL	<a href="https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ot/">https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/ot/</a>
現職・資格・知識	現地の作業療法士資格を有している者（学士又は同等程度の学力）
経験年数	実務経験 3 年以上
日本語能力	N2
英語能力	不問
① 目標	基礎的作業療法を理解し、日本における作業療法の役割や機能を説明できること。
② 成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人中枢神経障害、小児発達障害の作業療法</li> <li>2. 運動器障害（スポーツ障害を含む）の作業療法</li> <li>3. 地域における高齢者に対する作業療法サービス（介護予防を含む）</li> <li>4. 作業療法研究法</li> </ol>
③ 計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部・大学院授業の聴講</li> <li>2. 臨床理学療法の見学</li> <li>3. 作業療法関連学会、技術講習会への参加</li> <li>4. 作業療法関連実験への参加</li> <li>5. 日本人学生・大学院生との交流会</li> <li>6. 現地の関連施設の見学</li> </ol>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>本コースは、講義・演習などにより研修員の作業療法に関する知識と技能向上を目指して実施する。本学には作業療法教育・研究・臨床の育成専門家が多数在籍するため研修員はゼミに参加し、他学部生や大学院生とも意見交換を行いながら、理論的に作業療法学の知識と技術について学ぶ。合わせて、附属病院や協力病院・施設、及び我が国の先進的取り組みを行っている医療機関の見学などを通じて知見を得る機会を提供することにより、現地日系社会での高度リハビリテーションの拡大と作業療法士養成に貢献できる人材を育成する。研修員により、現地で高度な臨床や教育が実践されれば、患者の生活の質の向上だけでなく、現地日系コミュニティのリハビリテーションの発展に大きく寄与することができる。</p>
備考	<p>研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス）抗体検査結果に基づくワクチン接種、B型肝炎抗体価が陽性、COVID-19 ワクチン3回接種を終えている必要がある</p>

研修科目	理学療法学
分野	医療・介護・高齢化
コース No.	L2
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	1/20
提案団体	札幌医科大学
提案 URL	<a href="https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/pt/">https://web.sapmed.ac.jp/hokegaku/pt/</a>
現職・資格・知識	現地の理学療法士資格を有している者（学士又は同等程度の学力）
経験年数	実務経験 3 年以上
日本語能力	N2
英語能力	不問
① 目標	基礎的理学療法を理解し、日本における理学療法の役割や機能を説明できること。
② 成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人中枢神経障害、小児発達障害の理学療法</li> <li>2. 運動器障害（スポーツ障害を含む）の理学療法</li> <li>3. 地域における高齢者に対する理学療法サービス（介護予防を含む）</li> <li>4. 理学療法研究法</li> </ol>
③ 計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学部・大学院授業の聴講</li> <li>2. 臨床理学療法の見学</li> <li>3. 理学法関連学会、技術講習会への参加</li> <li>4. 理学療法関連実験への参加</li> <li>5. 日本人学生・大学院生との交流会</li> <li>6. 現地の関連施設の見学</li> </ol>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日系人が当学部で理学療法学を（再）学習し、日系人が日本の技術をもとに治療を行うことで同国民の日本と日系人への信頼を深める効果が期待される。
備考	研修では医療機関での見学を含むため、来日する際には4種（麻疹・風疹・水痘・ムンプス）抗体検査結果に基づくワクチン接種、B型肝炎抗体価が陽性、COVID-19 ワクチン3回接種を終えている必要がある

研修科目	日本の伝統的造園施工技術
分野	日本文化
コース No.	L5
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	10/31
提案団体	学校法人 東京農業大学
提案 URL	<a href="https://www.nodai.ac.jp/cip/">https://www.nodai.ac.jp/cip/</a>
現職・資格・知識	造園, 園芸, 農業, 都市計画の研究・教育や職業に携わっている方
経験年数	実務経験 1 年以上
日本語能力	N2
英語能力	英語でのコミュニケーション可
① 目標	各国でつくられてきた日本庭園をはじめとし, 各空間にみられる植栽・施工管理に応用できる日本の伝統的植栽や施工管理技術の基礎を習得する。
② 成果	①主要な日本庭園で使われる材料(植物, 無機物)の習得 ②植物管理の意義と手法の習得 ③基本的な庭園技術(竹垣等)の習得
③ 計画(内容)	1. 講義: ①日本庭園の構成, ②日本庭園の材料(植物・無機物), ③日本庭園の材料の扱い方, ④都市空間への応用技術 2. 実習: 植物管理(剪定)の手法, 竹垣の製作技術, 土壌管理・分析法 3. 見学: 東京都内, 京都, 地方の日本庭園 4. インターン: 都内造園会社で植木管理や庭園管理, 道具の取り扱い方等の実習
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修で習得した日本の庭園施工・管理技術は, 伝統的技法が多く含まれる。機械や電気, 資源が不十分な環境でも応用でき, 且つ精工な技術でもある。現地日系社会の心の拠り所としている日本庭園の修復と再生だけでなく, まちの造園, 景観づくりとその結果現れる安全なまちづくりを志す人物の養成に寄与する。
備考	

研修科目	日本式の高品質肉牛生産のための効率的・効果的な生産、繁殖、健康管理
分野	その他
コース No.	L9
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	2/26
提案団体	国立大学法人 山口大学
提案 URL	<a href="http://www.vet.yamaguchi-u.ac.jp/members/kadokawa-p.html">http://www.vet.yamaguchi-u.ac.jp/members/kadokawa-p.html</a>
現職・資格・知識	<p>基本的な動物についての知識を身につけていること  獣医師でなくても畜産農家の師弟や畜産関係者や就農希望者であれば可能  心身共に健全であること  異文化の中で多くの人と一緒に働くための適応力や協調性があること  好奇心旺盛で、勉強好きであること  犯罪歴が無く、麻薬・薬物の使用者やアルコール中毒者でないこと  日本語は新基準 N4 相当が望ましいが、英語でコミュニケーションできるのであれば特に問題はない</p>
経験年数	不問
日本語能力	N4
英語能力	不問
① 目標	<p>本研修では、黒毛和種牛はもちろんとして、黒毛和種牛の先祖である見島牛や、他系統の和牛である無角和種など、他県には存在しない様々な高品質和牛の生産地でもある山口県の特徴を発揮した研修を実施する。また夏場には、暑熱ストレスのダメージを受ける乳牛も題材としてとりあげ対策のための原理を理解する。研修の中では、最新の畜産学・獣医学の知見の習得と共に、高品質畜産物の生産現場での実習に基づきつつ、生産と共に両立させるべき繁殖管理を円滑に進めるために、問題要因を抽出・解析する能力を習得し、新しい効率的な疾病予防、繁殖、衛生管理等を含む総合体型を祖国で導入し展開するための基盤を習得する。</p>
② 成果	<p>高品質畜産物を生産する上で求められる最新の栄養学や生理学、感染症を予防し消費者からの安心安全面からの信頼を得るための衛生学等の獣医学、生産効率の向上を目指すとしやす繁殖についての知識・知見を、講義や実習等で習得する。国産牛肉の格点け方法を習い、目指すべき品質についての磨かれたセンスも習得する。一方で、生産に関わる細胞や遺伝子について、培養や発現解析などにも挑戦する過程で、分子レベルや細胞レベルでも、家畜生産について考える能力を習得する。また臨床獣医師をめざす学生用の実習などにも参加しながら様々な技術も習得する。さらに山口県内をはじめ、日本国内の牛肉生産のための重要な施設を訪問し、研修終了の後の帰国後に農家レベルや、地域集団レベルで取り組むべき改善ポイントを習得する。</p>
③ 計画（内容）	<p>最新の栄養学や生理学や衛生学等の講義や実習等  牛肉の格点け方法  生産に関わる細胞の培養や遺伝子発現解析などへの挑戦  臨床獣医師養成用の実習などへの参加  山口県内をはじめ日本国内の牛肉生産のための重要な施設の訪問</p>
本研修実施の意義	講義や実習等で習得した、高品質畜産物を生産する上で求められる

現地日系社会への裨益効果	最新の知識・知見を、現地日系社会で発揮する。また、日本の消費者との比較を基に、各国の消費者のため目指すべき品質についての磨かれたセンスも習得する。さらに習得した分子レベルや細胞レベルで考える能力を基に、より現地にあった科学的な家畜生産体型を形成し発展させられるような能力も得られる。また、習得した様々な技術や視点は、研修終了後に帰国した後に、農家レベルや、地域集団レベルで改善に取り組むべきポイントを明確にすることにも役立つ。これらを経て、現地日系社会の農家や消費者のために、非常に重要な専門家として活躍するための基盤を確立する。
備考	特になし

研修科目	日本社会におけるビジネススキルの習得及び日系アイデンティティの涵養
分野	日系アイデンティティ
コース No.	L10
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	6/16
帰国日	2024年12月（約6ヶ月）離日日は技術研修終了日翌々日を予定
提案団体	島根県
提案 URL	<a href="http://www.pref.shimane.lg.jp">http://www.pref.shimane.lg.jp</a>
現職・資格・知識	島根県人会等、島根県にゆかりのある日系団体の青年部等に所属している者、または、今後所属する意思がある者で、当該団体からの推薦を得られること
経験年数	実務経験1年以上
日本語能力	N4
英語能力	不問
① 目標	島根県内の企業での広報・広告デザイン・WEBデザイン業務等に関する実習を通して、日本のデザイン分野のスキルや日本企業のマネジメントスキルを習得する。また、自身のルーツとなる土地や日本文化等を知り、日系アイデンティティの涵養を図る。
② 成果	①研修員に、WEB デザイン等の企画・制作・広報に関する知識が習得される ②研修員に、日本企業の経営方法・マーケティング等の概要が理解される ③研修員に、自身のルーツ（島根県、日本文化等）に関する知識が修得される ④上記をもとに、研修員により、帰国後に自国で実践可能な知識やスキル等が整理される
③ 計画（内容）	1. 企業における専門研修 ①広報・広告デザイン・WEB デザイン業務等に関する実習 ②SNS 等を活用した情報発信等に関する実習 ③組織運営、マーケティング等に関する実習 2. 日本文化等に関する視察・実習等 3. 関係者への研修結果の報告
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日本企業での専門実習を取り入れた本研修において、研修員の専攻する分野の専門的・技術的スキル等を習得し、実務で活用できるようにするとともに、日本人の働き方や仕事の進め方を身を持って学び、日本企業のマネジメント（経営管理）スキルをも習得することで、母国での経済活動の活性化に貢献する人材育成につながるのと同時に、日系人の活躍の場の拡大による社会的地位の向上が期待できる。 また、自身のルーツとなる土地における文化体験等が、より深い日系アイデンティティの涵養に繋がる。
備考	

研修科目	観光果樹園経営及び果樹栽培技術に係る長期研修
分野	農業
コース No.	L11
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	11/23
提案団体	公益財団法人 ひろしま国際センター 研修部
提案 URL	<a href="http://www.marumero.com/">http://www.marumero.com/</a>
現職・資格・知識	日本語で研修受講が可能な語学力を有していること
経験年数	不問
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	<p>○果樹（イチゴ、スモモ、ブルーベリー、モモ、ブドウ等）の先端的栽培管理技術を習得する。</p> <p>○加工技術と商品化、マーケティングのノウハウを習得する。</p> <p>○観光果樹園の経営手法を習得する。</p>
② 成果	<p>○果樹栽培管理技術の向上</p> <p>○加工品の商品化、販売ルートの開拓、観光農園経営の成功</p>
③ 計画（内容）	<p>研修方法は、平田観光農園の通常業務に従事しながら実習を積み重ねて技術を体得することを基本とし、その中で具体的な各種ノウハウを伝授していく。栽培技術に関しては、開花期の受粉技術の習得が重要であることから開始時期は5月頃が望ましく、収穫が終わる11月頃までの半年間の研修を想定している。</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>本コースは、主に実習により研修員の果樹栽培技術の向上と生産物の高付加価値化の知見習得を目指して実施する。研修実施場所である平田観光農園は、政府の観光カリスマにも選定された現会長が、広島県の標高500mの山間地に位置する果樹園をその経営手腕により高い評価を得る観光農園に育て上げ、年間を通じた観光客の誘致に成功するとともに、生産果実の加工・販売も行うなど、果樹農業の高付加価値化を成し遂げた好事例である。これまで国内外の研修員を多数受入れた実績もあり、同農園での研修は現地日系社会での高品質果樹栽培の拡大と、農産物の高付加価値化に貢献する人材の育成に資するものである。</p> <p>研修員が帰国後、日本で習得した果樹栽培管理技術や高付加価値化を実践することにより、生産性・収入の向上のみならず、現地日系コミュニティ及び地域の発展に大きく寄与することができる。</p>
備考	

研修科目	伝統的産品を活用した地域ブランドの創出と地域の活性化
分野	その他
コース No.	L12
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	11/17
提案団体	公益財団法人 ひろしま国際センター 研修部
提案 URL	www.onomichihanpu.jp (日本語のみ)
現職・資格・知識	<p>○必要資格：年齢 21～50 歳</p> <p>○実習・OJT に必要な日本語によるコミュニケーション能力を十分有していること。</p> <p>○手芸、デザイン等の分野での地域産品の開発に関心があること。</p> <p>○この分野における経験があることが望ましい。</p>
経験年数	不問
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	<p>○「工房尾道帆布」における実習を通して尾道の地域産品（帆布）を活用した地域特産品の製造、販売、マーケティング等の取組みを学び、帰国後の日系社会における地域資源の再発見・活用につなげる力を養う。</p> <p>○「工房尾道帆布」や尾道の地域再生に取り組む人々との交流を通じ、地域課題解決における住民の主体的な関与の大切さや地域活性化の方策について知見を得る。</p>
② 成果	<p>○研修員に、「工房尾道帆布」の事例を通じて、地域資源の再発見と活用、地域特産品開発を通じた地域課題の解決、地域再生の知見が習得される。</p> <p>○研修員に、日本の地方のコミュニティにおける課題（人口減少、アイデンティティの喪失、地域資源の活用等）が理解される。</p> <p>○上記 2 項を基に、研修員により、自国で応用可能な技術・手法等が整理される。</p> <p>○研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。</p>
③ 計画（内容）	<p>○講義：「工房尾道帆布」における地域特産品開発と地域再生の取組み</p> <p>○実習・OJT：「工房尾道帆布」における地域特産品の製造、販売、マーケティング等</p> <p>○見学：関連他団体の施設・活動</p> <p>○演習：研修成果の取りまとめ</p> <p>○発表：内部及び関係機関</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>かつて海上交通の要衝であった尾道市では、帆船の帆布である「帆布」の生産が隆盛であったが、戦後は化学繊維に市場を奪われ帆布産業は廃れてしまっていた。そうした中、地元の女性グループが、辛うじて生産が存続していた帆布を、尾道の町のアイデンティティの象徴として再発見し、現代的な色柄やデザインを加えバッグや小物に加工して販売を始めるとともに、帆布作品を中心とした尾道の歴史・文化の発信を行い、現在では「工房尾道帆布」は観光客を誘引する賑わいの中心として、尾道市中心部の地域再生に大きな役割を果たしている。</p> <p>本研修では、「工房尾道帆布」における、地域産品を再発見し地域ブランドの創出へとつなげる取組みと地域再生への好循環の実例を学ぶことで、失われつつある日系社会のアイデンティティへの気づき</p>

	<p>と、地域資源として活用した地域活性化の方策について知見を得ることが可能である。こうした知見の活用によって、若い世代における日本文化の再発見とアイデンティティの強化が促進されるとともに、中南米各国における地域課題の解決に向け日系社会の若い世代が主体的な取組みを発揮することが期待される。</p>
備考	<p>研修実施機関は、研修員の生活面のサポートは困難とのこと。日本語でのコミュニケーションが支障なく行える方。</p>

研修科目	歯科矯正学
分野	医療・介護・高齢化
コース No.	L14
研修種別	個別長期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	2/13
提案団体	国立大学法人徳島大学
提案 URL	<a href="http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/">http://www.tokushima-u.ac.jp/dent/;</a> <a href="https://etanaka49.wixsite.com/website">https://etanaka49.wixsite.com/website</a>
現職・資格・知識	対象国における歯科医師免許
経験年数	実務経験 1 年以上
日本語能力	N2
英語能力	英語でのコミュニケーション可
① 目標	矯正歯科治療に関する高度な技術の習得と最新の知見を学習する能力を身につける。
② 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の矯正歯科技術（リンガルブラケット矯正治療、インプラント矯正歯科治療、外科的矯正歯科治療、口唇裂口蓋裂児の矯正歯科治療、マウスピース矯正歯科治療）の習得</li> <li>・顎顔面領域の MRI、CT などの画像データを用いた診断技術の向上</li> <li>・変形性顎関節症患者に対する治療技術の習得</li> </ul>
③ 計画（内容）	エッジワイズ法に関するタイポドント実習、教室主催のセミナーや論文抄読会への参加、および関連学会への参加を予定。加えて、現在、当教室で遂行している研究（変形性顎関節症の病態解明と治療法の開発、骨免疫学研究）にも参画してもらい、帰国後に母国で学位が取得できるような研究指導を行う。なお、本件担当者は、日本矯正歯科学会の指導医・認定医、日本顎関節学会の専門医、指導医であり、厚生労働省の臨床修練指導歯科医資格（外国人歯科医師指導資格）も有している。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本大学医歯薬学研究部口腔顎顔面矯正学分野では、変形性顎関節症の発症メカニズムの解明と新規治療法の開発を目指した研究においては多くの優れた研究成果を世界に発信していることから、本大学で最先端研究に触れるとともに、最新の歯科・矯正歯科医療技術を習得することにより、中南米における歯科・矯正歯科医療技術の向上に貢献しうる。また、日系人が日本の技術により、診断・治療を行うことで、同国民の我が国と日系人への信頼を深める効果も期待できる。
備考	

研修科目	食品科学と栄養管理
分野	その他
コース No.	S2
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	6/16
帰国日	9/19
提案団体	株式会社インターリージョン
提案 URL	なし
現職・資格・知識	無し
経験年数	不問
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	栄養学的見地から日本の専門料理、家庭料理について学び、日本の食文化に関する造詣を深め、日常の食を介しての実施可能な料理講習会を運営出来る技能を習得する。その料理講習を通し。今日の日本の食における栄養について最新の知見も紹介出来、日系社会の活性化に貢献出来る力を身につける。
② 成果	日本の食における特色として、食材の扱い方、味付けを科学的な見地から学ぶ。南米では日本の調味料が6倍の価格で販売されてることから、身近な材料で調味料の代用、工夫をする。具体的な方法(乾燥麴の活用、乾物の作り方、乾燥野菜からのベジブロスの取り方)を学び、日本食の味の特色を学ぶ。併せて日本の家庭料理から摂取出来る、食物繊維、微量栄養素、抗酸化能の高い野菜に関する知識など、食べることを介し健康につながる最新の栄養の知識を、料理の実技と共に学び、帰国後ひとりで、日本の家庭料理を再現出来、地域、日系社会へ向けた講習会を開催可能な技量を習得する。
③ 計画(内容)	研修員は酪農学園大学に設置された認定ベンチャー「インターリージョン」に席を置き、酪農学園大学と協働して、専門実習を行う。酪農学園大学は総合農業系大学として食品加工に関して多くの専門実習施設を持っている。日本の食品成分表、国民健康・栄養調査を用いて最新の栄養に関する知識を学ぶ。合わせて発酵調味料の作り方、日本食の専門料理、家庭料理、各種の治療食、レベル別の嚥下食について、実習と講義を並行して行う。専門研修として、京都、奈良、大阪において食の研修旅行を行う。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修は、栄養学的見地からの日本食の専門料理の研修と日本の家庭で伝えられてきた惣菜と言われる家庭料理について食文化的な背景を含め、科学的な効果も含めて学ぶことを目的とする。南米で入手可能な調味料の代替品の使用ポイントが分かると、日本の様々な料理を積極的に作るきっかけになると考える。具体的には研修員が帰国後、積極的に日本の家庭料理の科学的な良さを職場で伝えるとともに、地域コミュニティで講習会を有効に行うことで、地域貢献が出来ると考える。毎日の食事の摂取が進むことは、高齢者においては健康維持に直結し、医療費の削減にもつながる。さらに、本研修で得たスキル、情報を日系人コミュニティにこれまで参加していない若い世代へ紹介することは、食を介しての新たな交流の場の開設となり、人生における食の重要性を認識し、日系社会の活性化にも長期的に貢献出来ると思う。
備考	日本語が少ししか話せなくても、日本の食について関心があれば、英語、スペイン語である程度まで対応可能です。

研修科目	「日系アイデンティティ涵養・日系史教育教材作成」演習（１）
分野	日系アイデンティティ
コース No.	S4
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	7/24
提案団体	国立大学法人 金沢大学
提案 URL	<a href="http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/">http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/sie/</a> （日）, <a href="http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/eg/sie/">http://kuglobal.w3.kanazawa-u.ac.jp/eg/sie/</a> （英）
現職・資格・知識	<p>必要資格：次のいずれかの形で日系文化継承教育に携わるか、今後携わる予定がある者</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 具体的な希望教材制作テーマに関するアイデアを応募時点で有すること（最重要視する）</li> <li>2. 現地日系協会や日本人会組織等が運営する機関において、日系人子弟を含む対象者に対する日系文化継承教育又はその教材制作に携わる者（今後携わる予定がある者も含む）</li> <li>3. 所属機関や当該専門分野における中堅的人物であること（公的な第三者又は第三者機関による推薦を得るようにすること）</li> <li>4. パソコン（OS 不問）及び電子メール送受信、SNS 等の基本操作が支障なくできること。</li> </ol> <p>応募にあたっては、研修指導コーディネートを担当する太田亨・国際機構教授にメールで連絡を取り、研修計画に関する受け入れ承諾を事前に得ておくことを大前提とする。</p>
経験年数	実務経験 3 年以上
日本語能力	N4
英語能力	英語での資料読解、発表、レポート作成可
① 目標	「現地の中核となる日系文化継承教育者又は教師指導者」を対象に、研修員自らが日頃から抱える日系文化継承教育のための教材制作テーマに関する研修を行うとともに、日本の歴史や文化、社会的背景、現代日本の実情などについて体験を交えて深く理解する。また、研修により得られた成果を発表・公表し、当該国の日系文化継承教育のために活用することを目指す。
② 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絵画・漫画・動画など、日本（特に金沢を含む北陸地方）だからこそ入手可能な視覚教材資料の探索と収集</li> <li>・ 教材制作に関わる各種スキル（制作、編集、管理・更新方法など）の修得</li> <li>・ 研修員の指導対象となる日系子弟を想定し、学齢児童教育や語学教育現場視察を通じた教育技能のスキルアップ</li> <li>・ 日本文化、日本史、現代日本の社会実情などについて、体験学習を交えた深い理解</li> <li>・ 研究成果のプレゼンテーション、あるいは研究レポートの日・英・西又はポ語での記述</li> <li>・ ネットの活用により、修得した技術や成果を研修員の母国の日系社会で広く効果的に還元</li> </ul>
③ 計画（内容）	研修指導コーディネーターとして、国際機構の太田亨教授（専門は日本語・スペイン語・ポルトガル語間の対照言語学、および専門日本語教育学）が中心となって当たる。研修員候補者に対しては、受入れ申請が行われた段階から電子メール等を通じて希望研修計画の概要を問い、その実現可能性に関する試問を丁寧に行う。受入れが可能と判断された候補者とは、研究の具体的な目標と方法を詰めて

	<p>いき、本学到着後に最終的な研究計画を決定させる。  研修は、以下の内容のものを想定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義：日本文化概論，日本史，日本文化史，日本社会概論，日本伝統芸能概論</li> <li>2. 実習：日本文化・社会プログラム，日本伝統芸能演習，等</li> <li>3. 見学：人間社会学域学校教育学類附属学校，放送大学，石川県を始めとした北陸各地の文化施設訪問（美術館，博物館，等），（必要に応じて）研修員の研修内容に関わる地域への研修旅行</li> <li>4. 学会・セミナー・外部研修：（必要に応じて）研修員の研修内容に関わるものへの参加を検討</li> </ol> <p>最終発表：学内で研修最終日に実施予定（閉講式も兼ねる）</p>
<p>本研修実施の意義  現地日系社会への裨益効果</p>	<p>日本文化の伝統と歴史が色濃く残る石川県金沢市に立地した金沢大学では、2002年度から「文化社会学習プログラム」及び「いしかわ金沢学」が実施され、現在は更に発展・進化した「日本文化・社会学習プログラム」として、国際機構で運営されている。</p> <p>同機構では、日頃から日本語教育あるいは日本文化教育の教材作成ノウハウを通じて教材制作指導が行える体制を有するほか、教授スタッフの中にスペイン語やポルトガル語を解する教員が複数名いることも大きな強みである。</p> <p>これら人的・教育的両面のリソースを生かし、日系アイデンティティの継承教育に相応ふさわしい、視聴覚を中心とした教材制作研修の場を対象となる日系研修員に提供できるものと確信する。</p> <p>また、日系社会への裨益効果という点においては、研修成果を必ず電子媒体又は出版物として公表するよう指導している。これまでの実績で言うと、「YouTubeによる日本人の生の自己紹介教材ビデオの制作」（2013年度、メキシコ研修員）、「ポルトガル語による金沢紹介サイトの開設」（2014年度、ブラジル研修員）、「Android OS対応の和太鼓指導用アプリの開発」（2015年度、ブラジル研修員）、「日本のファッションに関する単行本上梓へ向けた最新資料の収集と公開」（2016年度、ブラジル研修員）、「日系人のアイデンティティの形成と日本人移民の歴史についての教材の精緻化」（2018年度、ブラジル研修員）、「石川県の歴史と文化をポルトガル語で紹介した創作漫画『ヒロシの冒険』制作プロジェクト」（2019年度、ブラジル研修員）があり、着実に実績と成果があがってきている。</p> <p>特記すべきは、2014年度研修員だった佐藤フランススコ紀行氏と2016年度研修員だった佐藤クリスチアナネ阿久根氏夫妻が共同で、2017年4月からブラジル三重県人会を拠点として行なっている「日本の歴史」コースの開講であろう。概要はJICAのホームページ等ですでに掲載されたとおりで</p> <p>(<a href="https://www.jica.go.jp/yokohama/topics/2017/170411_1.html">https://www.jica.go.jp/yokohama/topics/2017/170411_1.html</a>)、本研修受入れ担当の太田亨教授がYouTubeを使って「日本留学」に関する質問に答えたり、日本史を専門とする山本洋准教授（国際機構）が「日本の近世史」の講義にビデオ参加したりして協力を行ったが、同講座はブラジルで人気を博し、2022年度も継続して開講されている。また、2022年3月には、元JICA派遣研修員がブラジルで累計1万人に達したことを記念して『Ichimannin - Depoimentos de ex-bolsistas da JICA』がサンパウロ市で刊行され、本研修を受講した元研修員の研修内容も掲載されていることを付け加える。</p>
<p>備考</p>	<p>年間1コースの受入れを想定しており、5月来日予定の上半期コースに応募者が採用された場合、10月来日予定の下半期コースに募集する必要はなく、逆に上半期コースに合格者ない場合、自動的に下半期コースを継続して募集を行うものとする。</p> <p>また、応募にあたっては、研修指導コーディネートを担当する太田亨・国際機構教授にメールで連絡を取り、研修計画に関する受け入れ承諾を事前に得ておくことを大前提とする。</p>

研修科目	高齢化対策・生活習慣病予防
分野	医療・介護・高齢化
コース No.	S10
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	7/27
提案団体	順天堂大学
提案 URL	<a href="https://med.juntendo.ac.jp/research/course/list/globalhealthresearch.html">https://med.juntendo.ac.jp/research/course/list/globalhealthresearch.html</a>
現職・資格・知識	必要資格；保健医療福祉分野に関心のある研究者、実践家や、行政関係者
経験年数	実務経験、最終学歴後の実務経験等
日本語能力	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
① 目標	高齢化対策・生活習慣病予防に関する公衆衛生的課題の科学的な把握方法を学び、社会的ニーズに基づく適切な対策が立案できるようになる。
② 成果	①日本やアジア地域各国の高齢化対策の現状と課題を把握する ②基礎的疫学・統計手法（データの集め方、研究デザインの立案、基本統計量、差の検定、分散分析、多重線形回帰分析、マルチレベル分析、共分散構造分析 SEM、など） ③公衆衛生学に基づく政策手法（PRECEDE-PROCEED モデル、ヘルスプロモーション、ハイリスク・アプローチ、ポピュレーション・アプローチなど）
③ 計画（内容）	1. 講義；①基礎統計の解説、②医学部公衆衛生講義の聴講（日本語能力上可能なら） 2. 実習；①大学院レベルのゼミ、②抄読会、③月例勉強会への参加 3. 演習；①実地調査への参加、②データ入力、③データ解析（SPSS、SAS、Stata） 4. 視察；大学病院、東京都杉並区、静岡県伊豆の国市、など保健医療福祉施設 5. 発表；学内研究発表会、学会での発表（予定）
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	日本の高齢化対策のみならず、順天堂大学と国際学術交流関係にあるタイ・シンガポール、韓国などアジア地域各国の高齢化対策の現状と課題についても研修する。大学病院以外に、研究協力関係にある東京都杉並区の医療施設、静岡県伊豆の国市などで日本の高齢者と向き合い現場で学ぶ。 日本での経験がそのまま社会経済状況や文化背景も異なるそれら諸外国に適用できるものではないが、社会的ニーズを的確に把握し、政策化する基礎情報を与える疫学統計的手法は万国に共通するものである。従って、それら諸国の近未来の公衆衛生上最大の課題となる高齢化対策・生活習慣病予防について、疫学・統計情報に基づくアクションプラン策定を経験した人材を養成することは、研修参加対象国にとって貴重な貢献になるとと思われる。
備考	

研修科目	鍼灸学
分野	医療・介護・高齢化
コース No.	S16
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	6/16
帰国日	9/13
提案団体	関西医療大学
提案 URL	<a href="http://kansai.ac.jp/">http://kansai.ac.jp/</a>
現職・資格・知識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療系の大学を卒業していることが望ましい。</li> <li>・医療系（鍼灸を含む）の資格を有していることが望ましい。</li> <li>・鍼灸学を既にある程度習得していることが望ましい。</li> </ul>
経験年数	不問
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	鍼灸学についての基本的な知識・技術の再確認を行なった後、日本で行なわれている鍼灸の様々な知識及び技術、更には最新の知識・技術の習得を通じて、鍼灸学に係わる考え方、学ぶ力を身につける。さらに、帰国してからも中南米社会で研修成果を社会に還元する。
② 成果	鍼灸学全般に係わる基礎的な知識を確立することができる。また、日本で行われている伝統的な鍼灸治療についての知識と技術の概要を理解できる。 鍼灸治療の実地見学などの機会を通じ、高度な知識の習得や鍼灸臨床の技術力の向上を図ることができ、帰国後は自国での治療に活用することが可能となる。
③ 計画（内容）	関西医療大学附属鍼灸治療所において、日本で行なわれている伝統的な鍼灸治療法、現代医学的鍼灸治療法、トリガーポイント療法、その他、皮内鍼法、経絡テスト、特殊鍼法（耳鍼、頭皮鍼、髪際鍼）などを専任教員の指導下で学習する。（但し、患者さんへの治療は行なわない実習である） さらに、本学との交流をもつ他施設での見学を行なう事で、鍼灸の知識や技術の学びを補う。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本学は、1998 年度以来、断続的に 2022 年度まで日系研修員の受け入れを実施している（2020 年はコロナ感染の影響で中止、2021 年度は 9 月にリモートによる一日研修を実施）。学内外の関係教官、鍼灸治療施設関係者などとの広い人脈を活用しつつ研修を実施することで、研修員は相応の成果を習得し、中南米諸国への帰国後は習得した技術を活用している。鍼灸学の中南米における専門教育レベルをさらに高めることにより、日系社会のみならず中南米社会全体への社会的貢献につながると考える。
備考	上記の資格要件に課した日本語能力は、研修での教育効果に大きく影響するために日本語能力は高い方が望ましい。 ただし、インタビュー等により適性などを見て総合的に判断するものとする。

研修科目	言語と文化の継承と教育技術向上実践
分野	継承教育・日本教育
コース No.	S24
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	6/12
提案団体	高知県立大学
提案 URL	<a href="https://www.u-kochi.ac.jp/">https://www.u-kochi.ac.jp/</a>
現職・資格・知識	日系移住者子弟の教育を目的として設立された日系学校に勤務する教師等
経験年数	実務経験 1 年以上
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	地域の歴史、文化、慣習、言語の継承とその教育方法の技能習得並びに日本の国語科指導教育に関する知識の習得と教育実践の向上
② 成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文化の継承を担う教師としての実践技術</li> <li>2. 言語の継承を担う教師としての実践技術</li> <li>3. 文化と言語の記録のための理論と技能</li> </ol>
③ 計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日系日本語担当教員としての専門知識と実践力の向上 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 外国語としての日本語および国語科指導法に関する理論について（講義）</li> <li>(2) 外国人学習者に対する日本語指導実践（本学留学生や在住外国人に対する日本語授業の見学・授業実習）</li> <li>(3) 日本語教員・国語科教員経験者を交えた授業づくりに関する実践研究</li> <li>(4) 高知県下の小学校、中学校、高等学校での国語科授業見学</li> <li>(5) 指導のための教材開発と模擬授業</li> <li>(6) 読み聞かせ（朗読）技術の向上</li> </ol> </li> <li>2. 地域文化の継承について <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域言語の保存と継承</li> <li>(2) 講義・聞き取り調査への参加</li> <li>(3) 地域の歴史、文化財の保護と保存について知る 講義・博物館・実地見学 ・高知県の歴史 ・地域経済、地域振興への取り組み ・建築物、文化財保存への取り組み</li> </ol> </li> <li>3. 研修のまとめとして一日の振り返りを行う。また、高知県立大学在学の日本人学生並びに外国人留学生との文化継承に関するディスカッションや修了時には研修のまとめとしてのプレゼンテーションを実施し、研修成果を評価する機会を設ける。加えて、協力を受けた諸機関の方々も招き、研修成果の確認、今後の課題等について意見交換を行い、研修プログラムとしての質の向上を図る。</li> </ol>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	高知県立大学から提案するプログラムは、上述の中南米日系人社会における日本語教員の日本語能力向上と地域社会及び地域文化への理解を深めることを目的として開設し、研修期間を 1 ヶ月とするプログラムを展開していく。高知県立大学は 1945 年 8 月の創基以来地域に根ざす「県民大学」として学生の教育を行ってきている。今回の応募に際しては、この考え方を踏まえ、地域の文化資源としての日本語の研究や地域文化の継承に係る教育について、文化学部の専任教員が参画し進めていく。本研修プログラムの特色は研修参加者の地域文化及び日本語教育能力向上を主眼とし、実習や高知県内の市町村、施設、学校でのフィールドワークの機会を多く取り入れた

	言語研究と文化研究を融合した内容となっていることが特色である。これにより、国際協力という分野における教育・研究力を示すことができ、現地日系人社会との人的交流及び文化的交流の拡大に寄与できると考える。
備考	本提案書は、あくまで来日を想定したものだが、来日が叶わない場合は、一部プログラムを変更してオンラインでの実施に向けた対応を検討する。

研修科目	早期胃癌の内視鏡診断と治療（個別短期・上期）
分野	医療・介護・高齢化
コース No.	S25
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	6/15
提案団体	国立大学法人 九州大学
提案 URL	<a href="http://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html">http://plaza.umin.ac.jp/imed/en/index.html</a>
現職・資格・知識	医師（内視鏡経験が1年以上で年齢60歳以下） 経験年数：医学部卒業後2年以上かつ臨床経験2年以上
経験年数	必要資格に記載の通り
日本語能力	不問
英語能力	英語でのコミュニケーション可
① 目標	世界トップレベルの日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新機器を用いた早期胃癌の発見法と治療法を学ぶ
② 成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の内視鏡診療で用いる機器や知識を習熟できる</li> <li>・次世代型トレーニングモデルや豚切除胃を用いた治療内視鏡のシミュレーション学習により、治療内視鏡の技術とコツを学ぶ</li> <li>・帰国後の自国における具体的な活動計画を作成する</li> <li>・インターネットを用いて日本と自国の遠隔医師教育講座を開催し、継続的な医療教育を行うことで自国における早期胃癌の診療レベル向上に寄与する</li> </ul>
③ 計画（内容）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義：最新の内視鏡診断や内視鏡治療に関する論文の討論会への参加</li> <li>2. 見学：九州大学病院および関連施設における内視鏡検査の見学と討論</li> <li>3. 実習：粘膜モデルやブタから切除した臓器を用いた内視鏡治療の実習</li> <li>4. 学会参加：日本消化器内視鏡学会や日本消化器病学会を中心とした学会、研究会への参加</li> <li>5. 発表：病院内で研修内容を発表</li> </ol>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>日本での研修を通じて、日本語を学びながら日本の内視鏡診療の現状を把握し、最新の機器を用いた世界トップレベルの内視鏡診断法、治療法について学習することを目的とする。さらに研修期間中に学会にも参加し、これからの内視鏡診療と開発中の技術についても学ぶ。このようにして技術や知識を習得し、帰国後は自国の内視鏡診療の発展だけでなく、自国語と日本語を理解することで現地と日系人社会との橋渡しとなって、現地日系人社会への充実した内視鏡診療の提供と早期胃癌発見率増加へ貢献できる人材を育てる。このように、このプロジェクトで研修した医師は中南米における日系人の健康寿命増進とQOL（生活の質）向上に寄与できると思われる。また内視鏡機器の分野は日本製品が世界シェアの80%以上を占めており、現地日系社会の医療分野での貢献のみならず、日本製品の輸出振興への寄与が期待される。もし感染症などにより渡航制限が行われた場合は、当院での現地研修の代替としてオンラインでの内視鏡診断・治療の研修を実施する。</p>
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語能力不問</li> <li>・宿舎は外国人研究員等宿泊施設（馬出）または九州大学病院までアクセスの良いホテルに宿泊の予定。外国人研究員等宿泊施設の立地・設備等についてはホームページ参照のこと (<a href="https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/teacher/accomodation#teacher_acc_1">https://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/teacher/accomodation#teacher_acc_1</a>)</li> </ul>

研修科目	SATOUMI の推進（持続可能な開発のため地域振興と海洋の保全）
分野	その他
コース No.	S27
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	7/21
帰国日	8/3
提案団体	国立大学法人 香川大学
提案 URL	ウェブサイトアドレス（日・英）： <a href="https://www.kagawa-u.ac.jp">https://www.kagawa-u.ac.jp</a>
現職・資格・知識	必要資格； 下記のうちいずれかに合致していること 日系社会において地域振興の取り組みの経験があること、 SDGs 目標 14 に関する活動をしていること 海洋を利用した起業をめざしていること
経験年数	3 年程度
日本語能力	N1
英語能力	不問
① 目標	香川の里海における生物多様性の保全と持続可能な利用の実践事例から SATOUMI の概念を理解し様々な関係者が協働して取り組む事例を学ぶことにより自然環境の保全と住民の生計向上の両立という視点から自国における地域振興を導くための業務に活用される。
② 成果	香川の里海における生物多様性の保全と持続可能な利用の実践事例から SATOUMI の概念を理解し様々な関係者が協働して取り組む事例を学ぶことにより自然環境の保全と住民の生計向上の両立という視点から自国における地域振興を導くための業務に活用される。
③ 計画（内容）	1. 日本の事情を習得する。(大学にて留学生に実施している講義受講) 2. SATOUMI の概念、歴史及び国家戦略や香川県における里海の政策、取り組み等の講義。 3. 香川県における地域振興の課題と実際の取り組み状況についての視察および事例研究。 4. 海洋資源を利用した起業家との意見交換。 5. 海洋資源を利用した振興策(芸術祭で作成されたアート、Instagram を利用した海岸等)視察。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修実施の意義／現地日系社会への裨益効果： 里海とは「人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなった沿岸地域」のことで、国立公園指定の第一号である瀬戸内海に面する県のひとつである香川県では 2013 年度から「かがわ「里海」づくりビジョン」に基づき「人と自然が共生する持続可能な豊かな海を目指し県民一人ひとりが里海づくりに関わっていくための基盤づくりを行っている。歴史的には高度経済成長時の水質汚染の浄化に取り組んできており現在ではプラスチックごみをはじめとする漂着ゴミの対策を行っている。また、80 年前から日本で初めてハマチの養殖に取り組むなど持続的な海洋資源の利用など様々な取り組みが行い自然との共生が行われている。アートを通して瀬戸内海の島々を舞台にして地域の活力を取り戻す瀬戸内国際芸術祭が 3 年ごとに開催されており芸術祭の開催年でなくても地域振興としてのアートを体感できる。また、様々な海洋資源を利用した地域振興策や若者による起業等が取り組まれている。研修員によって 手を加えることによる海洋資源の保存、地域振興、企業等のヒントが得られるものとする。 また、日系社会では昨今 日系人同士の交流が希薄になっていると

	聞いており、香川の里海の取り組みを視察してもらうことにより古くからの日本人の「協働」の精神、「思いやり」、芸術にも触れることにより新たな気づきが得て新たな日系社会が築くことができるものと思われる。
備考	

研修科目	建築設計（意匠・構造及び設備）
分野	その他
コース No.	S28
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	6/16
帰国日	7/20
提案団体	株式会社 具志堅建築設計事務所
提案 URL	<a href="https://gushikena-e.net/">https://gushikena-e.net/</a>
現職・資格・知識	大学の建築学科、建築に関連する学科、もしくは都市計画に類する学科の卒業生
経験年数	最終学歴修了後3年以上の実務経験
日本語能力	N5
英語能力	英語でのコミュニケーション可
① 目標	建築の設計・施工に関する、建物の機能性、安全性、適正な避難計画、耐震・環境対応策、これらに関する設備計画、また施工監理において基本的技術を習得する。
② 成果	建築設計・施工監理に必要な技術を以下の研修内容で習得する。 1. 当社社員による各分野の講座にて、必要な知識を習得する。 2. 当社が抱える工事現場へ出向き、生の日本の工事技術・環境に触れる。 3. 当社が行った実績（施設）の見学、史跡や有名施設の視察を通し、沖縄の環境を土台とした建築の成り立ちを習得する。
③ 計画（内容）	建築設計・施工監理に必要な技術を以下の研修内容で習得する。 1. 当社社員による各分野の講座にて、必要な知識を習得する。 2. 当社が抱える工事現場へ出向き、生の日本の工事技術・環境に触れる。 3. 当社が行った実績（施設）の見学、史跡や有名施設の視察を通し、沖縄の環境を土台とした建築の成り立ちを習得する。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	研修で技術的内容を習得し帰国すれば、日系企業等との連携で、現地での展開に貢献できると考え、また日系の建設系企業（日系県人会も含めて）等との連携により、当地への導入が実現すれば現地の建設系企業等に貢献することができ、またその建築設計や建設業関連会社の技術者の雇用等にも貢献できると考える。
備考	

研修科目	自然資源管理に向けた GIS、GPS、ドローン等の リモートセンシングの基礎技術
分野	その他
コース No.	S30
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	8/10
提案団体	酪農学園大学
提案 URL	<a href="https://www.rakuno.ac.jp/">https://www.rakuno.ac.jp/</a>
現職・資格・知識	表計算ソフトの操作など、基本的なコンピュータ操作が可能なこと。 リモートセンシングソフトの操作については問わない。新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、来日がかねわない場合は全ての研修内容をオンラインでも対応が可能である。
経験年数	不問。
日本語能力	N5
英語能力	英語でのコミュニケーション可
① 目標	環境共生の考え方を含め、GIS、GPS、ドローン、衛星リモートセンシング技術等の基礎を習得する。
② 成果	1) GIS 活用の基礎知識と ArcGIS や QGIS 等のソフトウェアを用いた分析方法を習得する 2) GPS の基礎知識、農地や森林、環境管理のためのデータ収集システムの構築や活用方法を習得する。 3) ドローン、衛星リモートセンシングの基礎知識とリモートセンシングソフトの操作方法、ドローンデータの処理、緑地抽出手法、収量予測手法などの分析方法の基礎を習得する。
③ 計画（内容）	GIS、リモートセンシング（衛星・ドローン）の基礎を、本学の持つ GIS やリモートセンシングソフトウェア、ドローン、蓄積したデータを用いて学ぶ。GPS、ドローンについては、森林地や農地等での実技とデータ処理等の実習を行う。 本学で行われる JICA 課題別研修等にも参加し、技術の向上・多角的な視点の獲得・国際的なネットワークの構築を図る。GIS・リモートセンシング等の最先端技術を知るイベント等に参加する。
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	この研修では、GIS、GPS、ドローン、衛星リモートセンシング技術等の基礎を習得することを目標としている。技術研修であるが、題材として環境共生を含め、その考えた方も学ぶ。GIS 等の技術は、自然資源の適正管理とともに、スマート農業等、作業の効率化や安全安心な農産物の生産、質の向上等にも資する。このような技術を持つ人材を増やしていくことは、今後の日系社会の発展と持続可能な社会づくりに貢献することである。 酪農学園大学は、2009 年に米国の ESRI 社から、GIS 技術の特に優れた機関として、日本の大学としては一校 SAG 賞を受賞するなど、国内最先端の GIS 技術を有している。
備考	

研修科目	日系社会地域資源の保存技術と活用ー日系社会の歴史の保存ー
分野	資料保存
コース No.	S31
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	7/21
帰国日	8/17
提案団体	吉備国際大学外国学科
提案 URL	大学ウェブサイト <a href="https://kiui.jp/">https://kiui.jp/</a> 外国学科 URL <a href="https://kiui.jp/gakka/gaikoku/index">https://kiui.jp/gakka/gaikoku/index</a>
現職・資格・知識	経験年数も含め、特になし。PCの基礎的な操作（Word, エクセル, PPT など）ができることが望ましい。
経験年数	特になし
日本語能力	N3
英語能力	英語でのコミュニケーション可
① 目標	研修員が現地日系社会の伝統資源を認識し、修復、保存、活用に関する必要な知識と技術を習得する。
② 成果	1) 地域資源としての日系社会の伝統資源を認識する知識と技術を習得する。 2) 地域資源の現状評価（非破壊分析）、修復計画、修復技術に関する知識と基礎的技術を習得する。 3) 地域資源のデジタル・アーカイブ化に関する知識と技術を習得する。 4) デジタル・ファブリケーション技術を活用し、地域資源の複製作成などに関する知識と技術を習得する。 5) 日系社会でのイベントなどにおいて、地域資源の活用を計画、実行、評価する技術を習得する。 6) 地域資源の活用経験の形式知化に関する知識と技術を習得する。
③ 計画（内容）	1. 講義：1) 地域資源の活用に関する概論、2) 岡山県における地域資源の具体的な活用事例、3) 地域へのインパクト、4) 地域資源の現状評価、5) 評価技術の理論と応用、6) 修復計画の作成と具体事例、7) 修復技術概論、8) デジタル・アーカイブ技術と応用、9) デジタル・ファブリケーション技術（FabLab）の概論、10) FabLabの活用事例と教訓、11) 地域イベントのプロジェクト・マネジメント手法、12) 形式知化の技術と応用 2. 実習：1) デジタル写真などを活用した文化財の調査手法、2) 文化財の各種非破壊検査手法、3) 修復計画作成シミュレーション、4) 修復技術の基礎実習、5) デジタル写真の撮影、6) デジタル・アーカイブ作成、7) FabLabの基本機材（レーザー・カッター、3Dプリンターなど）の基礎操作、8) 地域イベントを想定した各種コンテンツ作成、9) 地域イベントのコンテンツ作成で学んだことを形式知化手法 3. 視察・見学：1) 吉備国際大学文化財総合研究センター（高梁市）、2) 備前おさふね「刀剣の里」、3) 長島愛正園歴史館、4) 備前焼の展示場（瀬戸内市伊部）、5) 瀬戸内市内・近郊の碑文、6) ライフタウンまび内デジタル工房まび（倉敷市真備町） 4. 発表：学内
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	帰国した研修員が、各地に点在する日系社会の伝統資源をそれぞれの地で継承すると共に、それら資源の一部を活用することにより、子ども達への教育、地域イベントの活性化、観光促進などの地域おこしに応用してくれることが期待される。 さらに、帰国研修員が中心となって、現地で日系社会の行事などを

	行なうことで、新しい世代（日系 3 世～4 世）が日系人としてのアイデンティティを涵養すること、また、研修員自身が将来、現地日系社会と日本との間の架け橋となることを期待する。
備考	キューバより 1～2 名の参加を想定していますが、他の対象国からの参加希望があれば、3 名の枠内で検討します。

研修科目	日本の食文化（お好み焼き）の継承による日系社会の活性化
分野	日本文化
コース No.	S32
研修種別	個別短期
上期・下期	上期
来日日	5/12
帰国日	6/10
提案団体	公益財団法人 ひろしま国際センター 研修部
提案 URL	<a href="http://www.okonomiyaki.or.jp/">http://www.okonomiyaki.or.jp/</a>
現職・資格・知識	<p>○必要資格：年齢 21～50 歳</p> <p>○実習・OJT に必要な日本語によるコミュニケーション能力を十分有していること。</p> <p>○基本的な調理の知識及び技術がある方（包丁などが使える方）</p>
経験年数	不問
日本語能力	N3
英語能力	不問
① 目標	<p>○日本で継承されているお好み焼きの作り方を学び、一定の品質で焼けるよう習熟し、自国の日系社会で指導することができるようになる。</p> <p>○お好み焼きを複数人で効率的に大量に作るオペレーション手法を学び、日系イベントなどで実践できるようになる。</p> <p>○イベント等で来場者等にお好み焼きの魅力や文化的な背景を伝えることができるようになる。</p> <p>○接客や衛生管理について、日本のやり方を参考とし、必要に応じてイベント等で実践する。</p>
② 成果	<p>○お好み焼きの調理法（品質管理、トッピング・アレンジ）</p> <p>○お好み焼きを複数人で大量に作るオペレーション手法</p> <p>○お好み焼きに関連した食文化に関する知識</p> <p>○衛生管理</p> <p>○接客</p>
③ 計画（内容）	<p>○一般財団法人お好み焼アカデミーで、お好み焼きに関連した食文化に関する知識を学び、イベント等でお好み焼きを効率的に大量に焼くためのオペレーション手法を学ぶ。</p> <p>○一般財団法人お好み焼アカデミーから紹介を受けたお好み焼き店の現場で実習を行い、品質管理が徹底された調理法、トッピングや現地で手に入り安い食材を使ったアレンジ、衛生管理、接客の手法について学ぶ。</p>
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	<p>お好み焼きは、日本の戦後復興とともに発展し、今なお幅広い層に親しまれているという背景から日系人のアイデンティティを刺激することができる食文化の一つである。お好み焼きは、栄養バランスに優れていることに加え、材料は世界中のどこでも手に入りやすく、その土地に合ったアレンジを加えることも容易であり、日系イベント等で大量に安価で提供することが可能である。このように、お好み焼きは質量共に日本の食文化として発信力が高いと考えられ、それが各国で評価されることにより、日系人であることに誇りを持ち、日系社会の共同意識と連帯を高め、活性化につながると考えられる。</p>
備考	